

年 組 名前 :

山梨市牧丘地区で、収穫期を2ヶ月ほど遅らせて希少価値を高めた「こがらしづぶどう」の出荷作業が3日、始まった。

こがらしづぶどうを栽培しているのは、JAフルーツ山梨所属のJA笛川支所管内で標高600m前後に位置する農家9軒。巨峰とシャインマスカットの2種類があり、雨よけの農業用ハウスで収穫期を遅らせるこ

とで希少価値を高めている。この日は朝から、同市牧丘町倉科の同JA笛川統一選所に約600kgの巨峰が持ち込まれ、検査員が一箱ずつ中身を確かめていた。京浜市場を中心で取引され、同JAの直売所でも販売する予定。

こがらしづぶどう部会の菊地典雄副部会長(49)は、「糖度の高いブドウに仕上がった。み

い」と話した。

JAフルーツ山梨による

と、作業は12月上旬ごろまで

続き、出荷量は約13トンを見込

んでいる。

〈山本就己〉

んなでおいしく味わってほしい」と話した。

JAフルーツ山梨による

と、作業は12月上旬ごろまで

続き、出荷量は約13トンを見込

んでいる。

こがらしづぶどう 出荷

山梨・牧丘 遅摘みで希少に



(2025年11月4日付 山梨日日新聞16面)

【記事を先生や家族に読んでもらうか、自分で読んだ後に、答えてください】

問1 「こがらしづぶどう」と、本来の「ぶどう」との、違いを答えてください。

問2 「こがらしづぶどう」となる、ぶどうの品種を答えてください。

問3 今年の「こがらしづぶどう」の出来栄えは、どうでしたか。